

第5号

広報委員長 尾島健太郎
 広報委員 小林均一 高橋政次
 吉田健二 中條英幸 元田和行
 花村一三 岡田義宏 小山洋史
 平松幸明 渡辺 昇

小布施まちづくりボイス

E-mail: kizai@town.obuse.nagano.jp HP: http://www.town.obuse.nagano.jp

発行 小布施まちづくり委員会
 編集 小布施まちづくり委員会
 2008年(平成20年)12月18日 創刊
 2010年(平成22年)3月23日 第5号
 ©小布施まちづくり委員会

「まちづくり委員会」1期(2年)が終了して



小布施まちづくり委員会が発足してはや二年が経とうとしています。この間、各部会では本当に熱心に話し合いをもたれ、町への提言・講習会等の実施と、今までに新しい新しい住民活動ができてきたと思います。それぞれ家庭や仕事を持ちながらのボランティア活動で、「まちづくりより、いえづくりをしてくれ」というご家族の方もいらつしやうと聞いております。私たちの

まちづくり委員会 第二のステージへ

活動は、「いえづくり」のための「まちづくり」であるということをもっと多くの方に知っていただく、新たな気持ちで第二期目を迎えたいと思います。自由にそして楽しく参加できるような雰囲気になればいいなと願い、一期しめくくりのご挨拶とさせていただきます。本当にありがとうございます。

まちづくり委員会
 会長 小山洋史

活動は、「いえづくり」のため「まちづくり」であるということをもっと多くの方に知っていただく、新たな気持ちで第二期目を迎えたいと思います。自由にそして楽しく参加できるような雰囲気になればいいなと願い、一期しめくくりのご挨拶とさせていただきます。本当にありがとうございます。

まちづくり委員会
 会長 小山洋史

「ここで二期が終了し二期目を迎えますが、多くの課題を抱えた昨今の生活環境を、皆様にもご参加いただき、ちよとづつでも明るい未来に変えていきませんか？」

我が子達のために・・・
 小布施のために・・・

福祉を考える部会
 部会長 花村三(文責)

小布施町高齢者等タクシー利用助成事業利用者証

利用者住所 大字

利用者氏名

利用助成券は町と契約したタクシー事業者(裏面)のみ有効です

小布施町高齢者等タクシー利用助成券

700 円分(運賃のみ)

出発地又は到着地が小布施町に限る

交流を考える部会 試行錯誤の二年間でした。

当部会は二十数名のメンバーで発足した最も人数の多い部会です。「交流を考える部会」と言うことで最初の提案で、小布施町にはそれぞれ活動しているグループや団体はどのくらいあるのかを調べ、それをまとめてみることにスタートしました。目的は、これらのグループ・団体をネットワーク化し、一つの目的に向かつてジョイントできないか、と云うことです。それが「情報ガイド」として各家庭に配布されました。現在まで各々部会員が情報集めに努力し、二十八グループ・団体からの情報が集まり二号まで発行致しました。しかし、活動写真を含め情報集めに苦慮し現在はい刊の状態ですが、これは継続していくつもりでいます。



そしてこれを、(図書館内に設置されている)交流センターと連携し、ネットにアップしていつでもご覧頂けるようにしたいと

一期はこれで終了しますが、二期目に向かい反省として、交流部会としてそれぞれのグループ・団体をいかに結びつけて行かなくてはならないかということでしょう。いろいろな団体・グループがコラボレーションしていければ、新たな交流がそこから生まれることを願っています。また「交流を考える」と言うことはあまりにも守備範囲が広く、部会員の中にも漠然として出席率が悪くなり、活動がストップしてしまうと言ったことが生まれます。そこで二期目はもつと目的を絞り込み、いろいろな部会が出来る方がいいのではないのでしょうか。(例えば、小布施ブランドを考える、地産地消を考える、他地域との交流を考える、小布施町に住んでいる外国出身者の人との交流、交流部会を潤滑油として各グループ間をまとめる役目などといった)目的が誰でもハッキリわかるような部会にすることが参加しやすいのではないかと考えています。交流部会では二期目に向かい、部会内を再構築し、新たにメンバー募集を行

また、広報誌に寄稿していただいた東大大学院都市工学研究室の島田先生を講師として迎え、地域ブランド(小布施ブランド)について講演していただきました。ブランドづくりには、いろいろな人が関わってようやく一つの目的が達成出来るということです。これは継続していくことがもつとも大事なことで、このことです。

上田市のまちづくりにはげみ、小布施のまちづくり委員でもある森さんのご足労で、上田の百勇志の会と初めて交流会を開き、これからの交流していくことを誓い合いました。今度は小布施より上田の百勇志の会をお訪ねしたいと思えます。

交流を考える部会
 部会長 渡辺 昇(文責)



「一の実験が終わった。官民協力のもとCHMで何が出来るか?可能性は?を探るために、およそ二年間の歳月をかけて行った「絵てがみフェスタ」だった。やり終えた充足感に浸りながら、本稿をまとめているのだが、公募の伴う作品展は、膨大な時間と労力を費やす。やらねばならない手作業が、目白押しと成り、部会の皆さん一層の協力が不可欠となる。途中から加わった皆さんの力もお借りし、この正念場を、スケジューリングや役割分担の「妙」で乗り切る事が出来た。官民一体となった総合力の高さに、圧倒された思

千曲川ハイウェイミュージアムの有効活用を考える部会 「一致結束。素晴らしい仲間たち」

「一の実験が終わった。官民協力のもとCHMで何が出来るか?可能性は?を探るために、およそ二年間の歳月をかけて行った「絵てがみフェスタ」だった。やり終えた充足感に浸りながら、本稿をまとめているのだが、公募の伴う作品展は、膨大な時間と労力を費やす。やらねばならない手作業が、目白押しと成り、部会の皆さん一層の協力が不可欠となる。途中から加わった皆さんの力もお借りし、この正念場を、スケジューリングや役割分担の「妙」で乗り切る事が出来た。官民一体となった総合力の高さに、圧倒された思



「CHM周辺に集う人の99.9%は、道の駅や公園が目的である。鯉の餌を求めて出入りする人を除き、入場料を払って入館する方は圧倒的に少ない。もともとが対象外なのだが、今後はこれら「対象外」の人たちを意識した企画、イベントなどを考えることも視野に入れておく必要があると思う。新年度に参加される皆さん。面白いイベントを、皆でワイワイやつて、楽しんでみませんか。」

CHMの有効活用を考える部会
 部会長 尾島健太郎(文責)

福祉を考える部会

福祉を考える部会 (二期反省)

皆さんは「福祉」というテーマで語り始めたなら、どんなテーマでどんな内容になるのでしょうか。複数で語り始めたなら、病気や高齢者、老人ホーム、福祉施設、老後の心配、健康などなど、いろんなお話を聞くことができるかと思えます。

それだけ「福祉」に関しては、生活(人生)に密着した広い分野なんです。十数名のメンバーで構成された当部会は、小ぢんまりとまとまった部会です。メンバーは様々な方が集まっており、むかし介護業務に携わっていた方、ご家庭で介護経験をお持ちの方、食事の改善などに興味を持っていらっしゃる方、生活の中から福祉に想いを持っている方などなどいろいろです。この様な方々と時間をかけて一つのテーマを決め、時間をかけて提言をまとめました。それが試行的にスタートした「タクシー利用補助」に関する提言でした。とにかく今困っていることは何だろうか?すぐにできる改善策は?など、多くのテーマが出てきました。その全てを改善に向けていければと思いましたが、実態を把握し、それぞれの改善策を検討していくに

は、月一回程度の部会では叶わぬ夢でした。しかし今ある資源を有効的に活用し、地域に合ったサービス形態で、継続できることは何だろうか?と考えた結果がタクシーを利用したサービス提供でした。利用者も増えつつあるようで、もっともつと多くの困っている方に利用されることを望みたいと思います。

ここで二期が終了し二期目を迎えますが、多くの課題を抱えた昨今の生活環境を、皆様にもご参加いただき、ちよとづつでも明るい未来に変えていきませんか?

我が子達のために・・・
 小布施のために・・・

福祉を考える部会
 部会長 花村三(文責)